

講演会のお知らせ

日時：**11月12日**（水）**19時～21時**

会場：白馬村ふれあいセンター 2F

（白馬村役場前）※夜間のため、入口は正面玄関
右手の通用ドアとなります

ゴミ問題は
大幅減量化こそが
最大緊急の課題だ！

～白馬（大北）は
ゴミ処理の先進地たれ！～

講師 田中欣一氏
（日本思想史家）

要約筆記
あります

by 白馬要約筆記
サークル
「ころぼっくる」



<主催団体>（順不同）

グリーンスポーツの森愛好会、ゴミ処理施設を考える名鉄の会、どんぐり・新ゴミ処理施設を考える会、まちづくり白馬友の会、メルヴェール白馬管理組合
新ゴミ処理施設を考える会、わらびの会、元気な白馬村を作る会、新婦人の会 白馬班、白馬「ゴミ」ネットワーク、白馬エコネット、白馬の将来を考える外
国人村民の会、白馬皆援隊ゴミ焼却ゼロの会、白馬山麓アウトドアスポーツ協議会、白馬自然環境を守る会、白馬新ゴミ施設を考える会、白馬村民フォーラム、
白馬大橋からの景観をまもる会、白馬邑あいがも農法研究会、北アルプス民主商工会 白馬・小谷支部（白馬新ゴミ処理施設を考える連絡協議会加盟団体）

<後援団体>（順不同）

●白馬村● 白馬の環境を守る会、白馬村新しい村づくり勉強会、白馬ごみ減量チーム“白馬あ～す隊”、場所を変更して白馬にゴミ処理場建設を推進する会
●大町市● ゴミ減量を考えるシンポジウム実行委員会
●小谷村● 小谷新ゴミ処理施設建設を考える会

<連絡先>ごみ問題解決に向けた講演会事務局：0261-72-5372（担当：加藤）

2008年11月6日発行

ゴミ問題は大幅減量化こそが 最大緊急の課題だ！

田中欣一 (日本思想史家・白馬村在住)

- ゴミ問題の実状は「病める日本の象徴的な姿」だ
- 日本国首相はゴミ問題と真正面に取り組むことを、スローガンとして掲げよ
- 国はゴミ省(仮設)を創設して優先・抜本的に取り組め
- 出た(出した)ゴミを処理場へ持って行けば、何とかしてくれるは時代遅れ
- ゴミ問題は、個々の意識改革こそが、その出発点
- 「騒ぐ」人がいた方がよい

1. 地球と日本 のいま

- 「サボテンとイグアナの島ガラパゴスに 昼夜を舍(お)かずゴミの燃ゆとは」(東京・石丸啓子、朝日歌壇・H20.4.13)
- 瀬戸内海国立公害園「一度、潜って見てくれ」
- 対馬海峡の海底に、ゴルフボールが何十万個も
- 富士山を世界遺産に・・・大賛成、だがあのものすごいゴミがなくなったならば・・・は立派な見識
- 日本は世界で一番、ゴミ焼却施設と煙突の多い国 世界の2/3が日本にあるという

2. ゴミの 昔といま

- 昔…… 少量、腐った(土に帰った)、無害、再利用(繕う) <貧しさの中の豊かさ>
- いま… 大量、腐らない(形として残る)、有害(毒)、使い捨て<豊かさの中の貧しさ>

大量生産→大量消費→大量廃棄(焼却)

3. 先進国に 学ぼう

- EU諸国 燃やさないゴミ処理への転換。焼却炉の稼働は禁止の方向へ
- スイス アルミ缶は廃止
- ドイツ 自動販売機は置かない、分別用の箱がいたる所に
- 包装廃棄物の規制令
- 発生源の製造業者・流通業者・輸入業者に回収・リサイクルの義務化

4. 日本の先進地に 学ぼう

- 先進地のゴミ政策と取り組み姿勢と実践例は、国の政策・指導を上まわっている 日本は世界の潮流に逆行している
- 日本の政府と企業の政策(対策)は、世界の潮流に逆行している
- ゴミ減量・ゼロを目指す自治体は加速度的に増加している
- ゴミ施設の広域化から離別する自治体が増加している
- 発生したゴミをどう処理するかという従来型の選択は、時代遅れ、経済破綻(はたん)は目前
- 白馬(大北)も先進地の仲間入りをしたい

5. 減量の キーポイント

- ゴミ減量は「大事なことだ、考えている」ではダメだ
- 減量化のための行政・専門家・民間の三者協働の組織(委員会)を早急に立ち上げよ
- 委員会は公開を原則とする
- 委員は宛職でなく、「やる気のある人こそが人材」という視点で(年齢・経験・性別は二次)下からの盛り上がりこそが命
- 女性の登用に重きを置く
- 委員会は減量を目指して積極的な提案をする
- 白馬村の環境課の創設はヒット、注目したい

<以上の視点に立つとき>

6. 新しい施設は不要 既存施設で十分

- あと10年は持つという、八方の現施設を大事に使う
- ゴミの大幅減量が達成されれば、現有施設の養生費は無論、破格の建設費は他への流用が十分に図られる
- 広域案に反対、賛成を超えて、飯森案も代替案も不要となる

7. 広域連合の あり方

- 広域化の推進は、事によりけりだ
- 例えば、消防、葬祭場などは広域で結構 病院、ゴミ処理など日常生活に深くかわるものは近くにあるほどよい(周辺化が促進されるものの広域化は不可)
- 経済性・利便性・功利性を優先させると、憂うべき事態が起きる(歴史が証明している)

8. 地震について

- 姫川筋(中部地溝帯地域)は、いつ地震があっても不思議ではない
- 50mはおろか、1km離れていても安全圏ではない
- 善光寺地震(弘化4年、161年前)の教訓。小谷-大町-池田の間だけでも(震源地から40km離れている) 倒壊413戸、半壊642戸、死者67人、崩落ヶ所多数だった
- 大地が鳴動し、地殻変動が起きる話だ 自然の強大なエネルギーの前には、人はひれ伏すしかない
- 地震は今夜起きるか、100年後か、500年後か分からない

9. ダイオキシンなど 有害(毒)物の 拡散について

- 今どき有害物質が吐き出される施設が認められることは、あり得ない、問題外だ
- もし煙突から吐き出される、目に見えないものによって、有害が実証されれば、大混乱を招くこと必定
- 施設は直ちに閉鎖せざるを得ない
- 建造物に老朽・損傷・思いもよらない過失はつきもの 国が総力を挙げて危険防止につとめている、原子力発電所でもあの通りだ
- 安全神話は幻想
- 鳥やトンボから赤信号(白馬の空は飛べない)が出されなければいいが
- トンボが住めないところには、人も住めないのである

10. 景観問題に ついて

- 白馬(大町も小谷もそうだが)は自然の計り知れない恩恵によって、今日あることを得た
- スキー産業の斜陽化、平地観光の復興を願って気付かされたことは、戦後60年の歩みは平地観光の資源を食いつぶしてきた歴史だった
- 目先の便利さと功利性を優先してきた歩みだった
- 飯森の候補地は大町から小谷への道筋に見られる最大規模の赤松林だ
- 予定地には人工物がなく白馬三山の引き立て役・前景として大きな役割を担っている
- その美しさは、大糸線の車窓から見るととき極まる(四季を通して)

11. ゴミ問題は 文化の問題

- ゴミとどう向き合うかは、環境・暮らしのあり方・生き方の哲学が問われている問題だ
- 結果として「すばらしい白馬・優れた観光地」としてのイメージアップにつながる美しい村づくりへの大きな前進だ
- ゴミ問題と真剣に向き合うことは、村と町と国を救い、地球貢献への王道を歩むことである

12. 広域連合は 引き返す勇気を

- 立場に多少の違いはあっても、互いに地域を愛するという共通理念にたっている。今こそ小異を捨てて、大同につくべきだ
- 広域連合は悪天候を冒して山に登ろうとしてはいけないか
- 口を開けば財政ひっ迫という時代、いまこそ発想転換をすべきとき
- 引き返す勇気を 大向こうから「よくやった、すばらしい決断だ」という喝采が聞こえてくるではないか